

## 日本版DMO形成・確立計画

## 1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO・ <b>地域連携DMO</b> ・地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人東紀州地域振興公社	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	三重県尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町	
所在地	三重県熊野市井戸町371番地	
設立時期	平成19年4月 東紀州観光まちづくり公社（任意団体）として設立 平成25年4月 東紀州地域振興公社に名称変更 令和2年4月 一般社団法人に移行	
職員数	13人【常勤12人（出向等12人）、業務補助職員等1人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	河上 敢二 （出身組織名） 熊野市	本一般社団法人の代表を務める予定で、熊野市長の任にある。東紀州地域一体での観光客誘致に向け、近隣各市町長とともに広域観光政策を展開している。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材） ※必ず記入すること	濱口 圭 （出身組織名） 熊野市 <専従>	事務局次長として勤務。旅行者の動態調査等を通じて観光マーケティング戦略構築に取り組んでおり、本地域への誘客を図っている。
各種事業構築及び総務責任者	岩本 弘一 （出身組織名） 三重県	平成31年4月、東紀州地域振興公社の事務局長に就任し、地域のパイプ役となりさまざまな観光振興事業に取り組むとともに、組織の運営を行っている。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	尾鷲市商工観光課、政策調整課 熊野市観光スポーツ交流課、水産・商工振興課、市長公室 紀北町商工観光課、企画課 御浜町企画課 紀宝町企画調整課、産業振興課 三重県南部地域活性化局東紀州振興課、観光局 など（全般）	
連携する事業者名及び役割	<広域での連携> 一般財団法人関西観光本部、一般社団法人中央日本総合観光機構 <県内での連携> 公益社団法人三重県観光連盟 <紀伊半島エリアでの連携> 公益社団法人伊勢志摩コンベンション機構 一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー <地域内での連携> 【DMO連絡協議会（旧世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業推進協議会）への参画団体】 観光協会（観光情報の提供）： 尾鷲観光物産協会、熊野市観光協会、紀北町観光協会 商工会議所・商工会（商工業の振興）：	

(別添) 様式 1

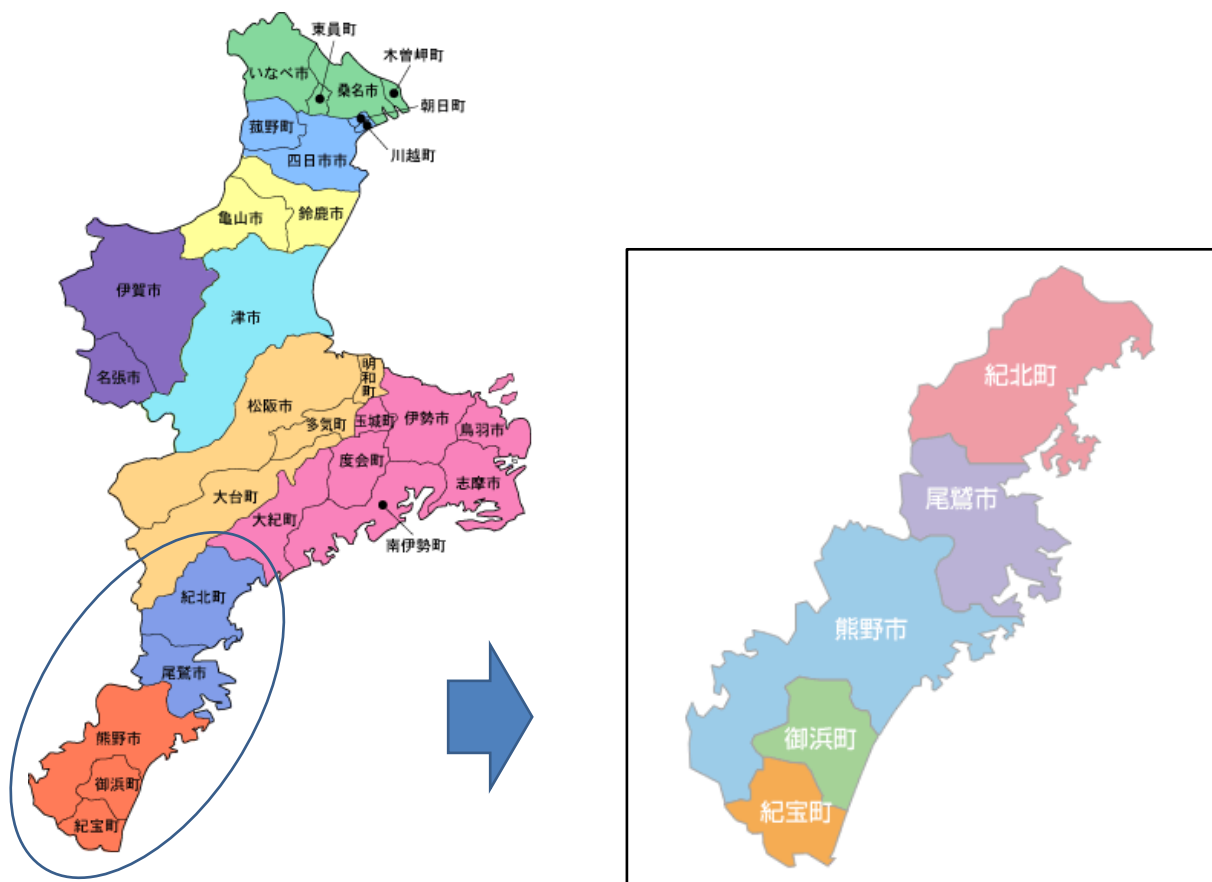
	<p>尾鷲商工会議所、熊野商工会議所、みえ熊野古道商工会、紀宝町商工会          観光・旅行事業者（旅行商品販売）：          熊野市観光公社  <b>【その他 東紀州地域内連携関係者】</b>          観光施設運営者（観光・産業情報の提供）          交通事業者（二次交通等のアクセス改善）          宿泊施設（インバウンド受入等の宿泊サービス改善） など</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>（該当する要件）          ②          （概要）          県・東紀州地域5市町によるDMO設立等に向け、平成28年度に、観光団体、商工団体、市町、県をもって構成する「世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業推進協議会（事務局：東紀州地域振興公社）」を設置し、委員会（年1回以上）や幹事会（年2回以上）の場で、事業に関する協議あるいは業務執行状況の監査を行ってきた。          令和2年度からは、毎年6月に定時社員総会（年1回以上）、必要に応じて臨時社員総会を開催し、法人が行う事業等に関して意思決定を行う。          また、より広範の地域事業者が参画できるよう、新たに、観光施設運営者、交通事業者、宿泊施設等、多様な関係者から構成されるワーキンググループを、DMO（一般社団法人東紀州地域振興公社）内に設け、毎年3月及び6月に開催する。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>平成30年度、令和元年度と、東紀州地域内の観光事業者等を対象に、インバウンド誘客への理解を深めるためのセミナーを開催してきたところ。          引き続き、魅力的な観光地域づくりを地域の住民、団体等が考えるきっかけとなる機会を日常的に提供し、意識醸成を図る。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>新規設置法人のため、実績なし。          ※東紀州地域振興公社での活動の概要は以下のとおり。          （活動の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東紀州地域の情報発信、誘客に関する事業              着地型商品の企画を行うとともに、観光物産展の開催やエージェント等への情報発信など、東紀州地域のプロモーション活動を行ってきた。</li> <li>・プレス&amp;フィルムコミッション（映画の撮影等の誘致）に関する事業              映画、テレビ番組等の取材受入並びに制作会社へのプロモーション活動等を行ってきた。</li> <li>・商品のブラッシュアップ、魅力ある地域産品づくりに関する事業              市場のニーズに合った商品開発、販路開拓等の支援を行うとともに、事業者の販売力強化に取り組んできた。</li> <li>・販路開拓支援に関する事業              バイヤーの招聘や効果的な販路先の提案などによるビジネスマッチング、商談会等への出展支援を行ってきた。</li> <li>・南三重地域の活性化に関する事業              南三重エリアの情報を掲載したパンフレットの作成を行うとともに、物産展を開催してきた。</li> <li>・熊野古道保全活動支援に関する事業</li> </ul>

<p>古道の価値を守り後世に伝えるため、民間企業からの寄付金を財源として、保存会、市町・県等関係機関と連携し、熊野古道及び関連する地域資源の保全活動等にかかる支援事業を実施してきた。</p> <p>・熊野古道語り部の斡旋、養成に関する事業 全国から寄せられる語り部の依頼を受け付け、各峠に登録されている語り部を斡旋してきた。また、英語と日本語の語り部養成講座をそれぞれ年1回ずつ開講し、日本語と英語の語り部を養成してきた。</p> <p>また、世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業推進協議会事業としても、平成28年度から平成31年度まで、地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金を活用し、主に以下の取組を行ってきたところ。</p> <p><u>1. 観光専門人材の育成等</u> 東紀州地域内の観光DMO立ち上げに向けて、観光専門家の講師を招聘し、行政関係者や観光事業者向けの勉強会を開催し、観光専門人材等の育成に繋げてきた。 また、本地域を訪れる観光客のデータ収集及び行動履歴分析等を行っており、東紀州地域への誘客に関する継続的な調査を行っている。</p> <p><u>2. 訪日外国人旅行者向け情報発信及び環境整備</u> 海外メディアやインフルエンサーを招聘し、訪日外国人をターゲットとしたプロモーションを行ってきた。 また、毎年度、本地域の重要な観光資源である熊野古道の「ガイドブック」の改訂・増刷を行うとともに、ホームページ上でも外国語版の充実を図っているほか、ビジターセンター（紀南ツアーデザインセンター）の機能を強化するなど、受入環境の整備に努めている。</p> <p><u>3. 5市町官民共同による海外セールス活動</u> 三重県や民間事業者とも連携しながら、主に台湾をターゲットとして、継続的に商談会やセールス活動に参加し、東紀州地域への誘客促進に繋げている。</p> <p>(定量的な評価) ■熊野古道伊勢路の来訪者数 平成30年度中の熊野古道伊勢路の来訪者数（推計値）は、330,632人となり、前年と比べて6,414人（約1.9%）の減少となりました。 平成29年度中の来訪者数と比べ、「浜街道・花の窟」が増加しているものの、それ以外のすべての峠で来訪者数が減少しており、その要因として、従来の団体旅行からFIT（個人旅行）へ旅行形態が変化していること、熊野古道関連ツアーが減少していること、昨年度は特に台風などの悪天候が影響したことも考えられます。 しかしながら、個人や小グループでの来訪客は堅調であることが見受けられ、加えて、和歌山県（熊野三山や中辺路）に来訪する訪日外国人の一部が、伊勢路にも来訪してきていることなどから、熊野古道伊勢路の来訪者数は平成25年度から30万人を超える状況は変わらず、熊野古道伊勢路の認知度は定着してきているものと考えています。 (参考) 平成28年 327,534人</p>
--

	<p>平成 29 年 337,046 人 平成 30 年 330,632 人</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>一般社団法人東紀州地域振興公社がDMO機能を担う。DMO事務局を中心に、行政（三重県＋東紀州地域5市町：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町）、観光団体、商工団体、宿泊業者、飲食業者など多様な関係者が組織するワーキンググループを運営する。</p> <p>また、令和2年度から、毎年6月に定時社員総会を開催するとともに、必要に応じて臨時社員総会を開催するほか、ワーキンググループを毎年3月及び6月に開催し、DMOが実施する事業と戦略の整合性等についてコミュニケーションを図る。</p> <p>(実施体制図)</p> <p>DMO事務局を中心に、行政、観光団体、商工団体等及び行政の実務担当者で組織するワーキンググループと連携して進める。</p> <p>DMO（一般社団法人東紀州地域振興公社）</p> <p>(構成員) ・5市町 ・県(南部)</p> <p>総会 社員(会員)6名</p> <p>理事 1名 監事 1名 5市町から</p> <p>DMO事務局 事務局長(1名)</p> <p>観光振興分野(5名) 産業振興分野(3名) 総務地域おこし分野(3名)</p> <p>県・5市町担当(課長)会議</p> <p>&lt;&lt;ワーキンググループ&gt;&gt; (仮称) 世界遺産・地域産業を活用した観光DMO産業推進協議会 ・交通事業者 商工会、会館等 ・観光協会、公社 観光施設、宿泊施設 ・商工、飲食業者 地元金融機関 ・各種組合、団体 NPO法人 など構成</p> <p>理事 1名 副理事 1名 事務局長 (1名) 県 事務局員 合計 12名</p> <p>観光振興分野 (4名) 産業振興分野 (4名) 総務地域おこし分野 (3名)</p> <p>県議会 尾鷲市長 熊野市長 紀北町長 御浜町長 紀宝町長 南部地域活性化局長 紀北地域活性化局長 紀南地域活性化局長</p> <p>○観光誘客促進 ○東紀州産業活性化支援 ○熊野古道保全活動支援 ○東紀州地域の情報発信 ○高志のファッションアップ ○熊野古道語り部友の会 ○プラスαフィルムコミッション(映画撮影等の誘致) ○魅力ある地域産品づくり ○熊野古道語り部友の会 ○紀南ツアーデザインセンターの管理運営 ○南三重地域の活性化 ○みえ熊野学研究会活動支援 ○総務管理</p>

## 2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

### 【区域の範囲が分かる図表を挿入】



### 【区域設定の考え方】

三重県は、大きく「北勢」「中南勢」「伊勢志摩」「伊賀」「東紀州」の5地域に大別され、東紀州地域は県南に位置する。平成28年度に「世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業推進協議会」を設置し、これまでも、県・東紀州5市町が一体となって、観光専門人材の育成・訪日外国人の受入環境整備・情報発信・セールス活動などの取組を行ってきたところである。

世界遺産熊野古道をはじめとした観光資源や温暖な気候を生かした特産品など、自然を体感できる魅力ある地域として、東紀州地域を効果的・効率的に発信するためにも、当該市町を区域として設定するのが適切である。

### 【観光客の実態等】

平成30年三重県観光客実態調査によると、東紀州地域の

- ◇ 「宿泊」は23.0%、「日帰り」は77.0%となっている。
- ◇ 「発地(居住地)」は、「県内」が43.5%と最も高く、次いで「愛知県」が22.2%、「大阪府を除くその他関西」が16.6%となっている。
- ◇ 「同行者」は、「子ども連れの家族旅行」が25.3%と最も高くなっている。
- ◇ 「旅行目的」は、「自然や風景を見てまわる」が44.1%と最も高くなっている。
- ◇ 「三重県内の交通手段」は、「自家用車の利用」が79.1%と最も高くなっている。

(別添) 様式 1

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

(1) 尾鷲市

<観光施設>

アクアステーション、夢古道の湯、世界の椿園、土井竹林、三木里ビーチ、向井黒の浜  
三重県立熊野古道センター、尾鷲神社

<商業施設>

おわせお魚市場おとと、夢古道

<自然>

世界遺産熊野古道（馬越峠、八鬼山越え、三木・羽後峠、曾根次郎坂・太郎坂）、  
三木里ビーチ、釣り、天狗倉山

<特産品>

梶賀のあぶり、さんま寿司、干物、深層水、ひのき、甘夏、ブリ

<文化、スポーツ、イベント等>

尾鷲節、尾鷲イタダキ市、尾鷲旬のコツまみバル、おわせ港まつり、おわせ魚まつり、  
ひのきふれあいフェスタ、全国尾鷲節コンクール、おわせ海・山ツデーウォーク、  
おわせマルシェ、尾鷲磯釣り大会

(2) 熊野市

<観光施設>

花の窟神社、紀南ツアーデザインセンター、熊野古道おもてなし館、鉢山資料館

<商業施設>

鬼ヶ城センター、道の駅熊野・きのくに、道の駅熊野・花の窟、熊野市駅前特産品館、  
道の駅熊野・板屋九郎兵衛の里、

<自然>

世界遺産熊野古道（曾根次郎・太郎坂、二木島・逢神坂峠、波田須の道、大吹峠、観音道、  
松本峠、通り峠、浜街道）、鬼ヶ城、獅子巖、花の窟、大泊海水浴場、新鹿海水浴場、楯ヶ崎、  
布引の滝、丸山千枚田、瀬峡、大丹倉、赤木城跡、徐福の宮

<特産品>

熊野地鶏、新姫、めはり寿司、さんま寿司、温州みかん、美熊野牛、熊野唐辛子

<文化、スポーツ、イベント等>

熊野大花火大会、花の窟春季・秋季例大祭、丸山千枚田虫おくり、紀和の火祭り

(3) 紀北町

<観光施設>

種まき権兵衛の里、きいながしま古里温泉、キャンプ inn 海山、けいちゅう、MAC孫太郎  
オートキャンプ、きいながしま比幾海岸オートキャンプ場、豊浦神社、二郷神社、長島神社

<商業施設>

始神テラス、道の駅紀伊長島マンボウ、道の駅海山

(別添) 様式 1

<自然>

世界遺産熊野古道(馬越峠・始神峠・三浦峠・荷坂峠・ツヅラト峠)、銚子川、FSCの森、紀伊の松島、下河内、便石山、天狗倉山

<特産品>

伊勢エビ、生節、干物、海藻類(アオサ・ヒロメ等)、渡利かき、柑橘類、ヒノキ製品  
マンボウ、カツオ、ブリ

<文化、スポーツ、イベント等>

きほく七夕物語、きほく燈籠祭、きほく夏祭り KODO、SEA TO SUMMIT、関船祭、船だんじり、大昌寺格子絵天井、円通閣聖観音堂、魚まち歩き、きいながしま港市

(4) 御浜町

<観光施設>

七里御浜ふれあいビーチ

<商業施設>

重点道の駅「パーク七里御浜」

<自然>

世界遺産熊野古道(横垣峠、風伝峠、浜街道)、七里御浜海岸、風伝おろし(朝霧)、引作の大楠、紀州犬

<特産品>

柑橘類(みかん)、梅、市木木綿、岩清水豚

<文化、スポーツ、イベント等>

御浜みかん祭り、ALOHANAくまの in 御浜、  
紀南シーサイドグルメツアー(サイクリングイベント)、阿田和の獅子舞

(5) 紀宝町

<観光施設>

世界遺産「熊野川」、世界遺産「御船島」、世界遺産「七里御浜」、道の駅紀宝町ウミガメ公園  
紀宝町飛雪の滝キャンプ場、井田観音、神内神社、平尾井薬師、貴祢谷社、烏止野神社  
加持鼻王子権現跡、鶴殿城址、京城跡、ふるさと資料館「みどりの里」

<商業施設>

道の駅紀宝町ウミガメ公園、紀宝町飛雪の滝キャンプ場

<自然>

世界遺産熊野古道(浜街道)熊野川、七里御浜、御船島、飛雪の滝、大里自然プール、子ノ泊山、大烏帽子山

<特産品>

マイヤーレモン、柑橘類、なれ寿し、無添加玄米酢、飛雪米、れんげ米、さんま寿し、めはり寿し、釜揚げしらす、なめこ、伊勢海老

<文化、スポーツ、イベント等>

光の祭典 in 紀宝、紀宝みなとフェスティバル、紀の宝みなと市、ほたる灯ろう展  
紀宝町花火大会、なれ寿しまつり、三反帆、諸手舟

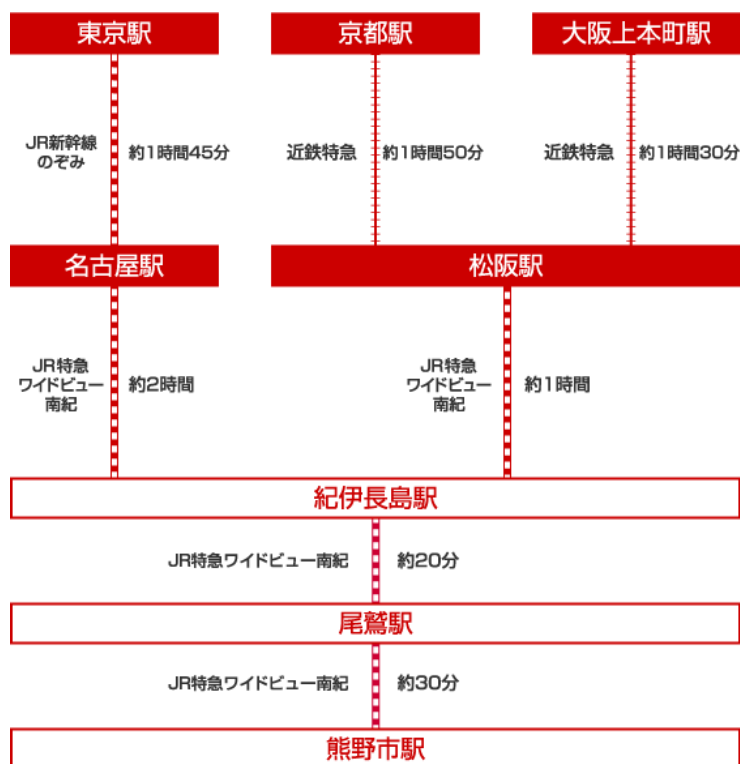
(別添) 様式 1

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

5市町	施設数	収容力	
		客室数(室)	収容人数(人)
(1) 尾鷲市	21	268	562
(2) 熊野市	20	356	1180
(3) 紀北町	30	414	1843
(4) 御浜町	3	16	35
(5) 紀宝町	4	39	104

【利便性：区域までの交通、域内交通】

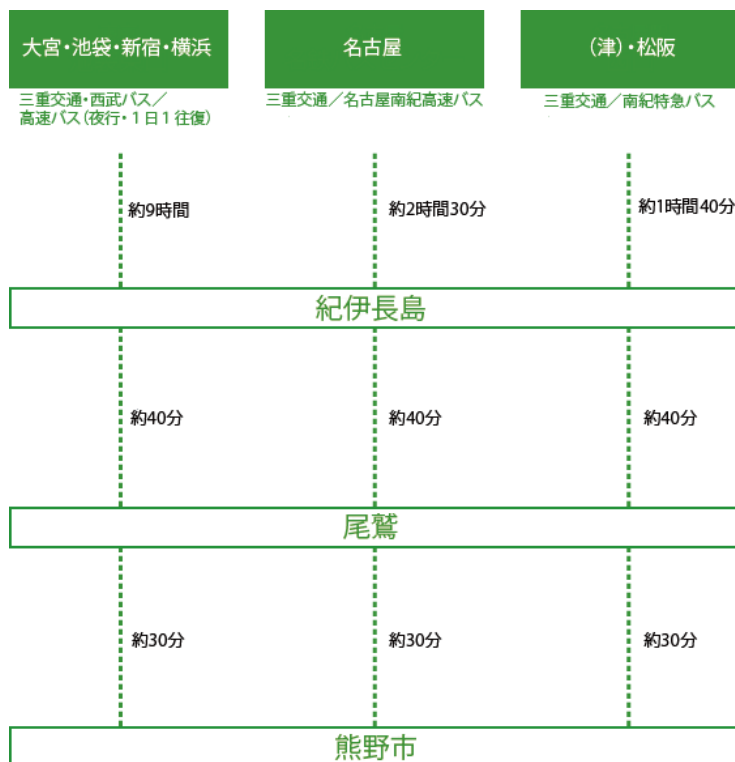
<電車でのアクセス>





(別添) 様式 1

<バスでのアクセス>

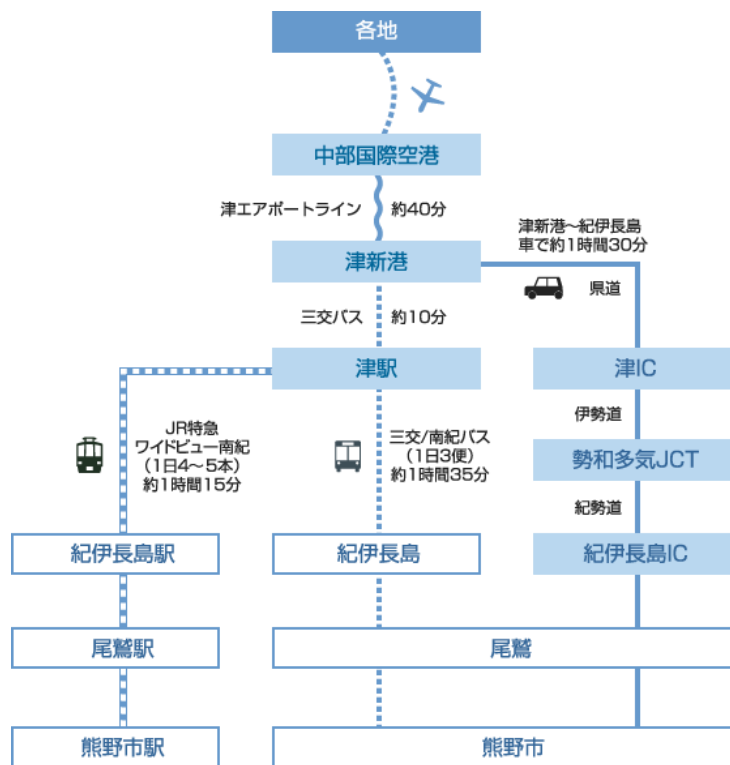


<車でのアクセス>



(別添) 様式 1

<空路でのアクセス>



【外国人観光客への対応】

- ・ J N T O 認定外国人観光案内所については、東紀州地域に全 4 箇所設置されており、外国人向けの観光案内に対応できる環境が整備されている。  
(カテゴリー1：1 箇所、パートナー：3 箇所)
- ・ 東紀州地域振興公社においても、外国人ビジターセンター（パートナー）を 1 箇所運営しており、今後は、外国人旅行者への案内対応に加えて、日本の文化体験ができる施設として、運営を進めていく。
- ・ 外国語パンフレットについては、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）、フランス語の計 4 言語（5 種類）に対応している。
- ・ 外国語ホームページについては、英語（1 言語）に対応している。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	東紀州地域振興公社公式サイト（ブログ等）のアクセス数による。
熊野古道伊勢路来訪者数	誘客を図るための基本データとするため。	地点調査データ等を参考に算出する。
観光消費額、観光入込客数	施策の効果の把握、誘客戦略策定のため。	三重県「観光客実態調査」から収集する。
メディア取材回数	東紀州地域への関心度を把握するため。	実数で把握する。
外国人宿泊者数	外国人旅行者の動向調査のため。	宿泊施設調査を自主事業として実施する。

## 4. 戦略

### (1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<b>強み (Strengths)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」</li> <li>・温暖な気候を生かした特産品</li> <li>・自然の豊かさ</li> <li>・吉野熊野国立公園</li> </ul>	<b>弱み (Weaknesses)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市圏からのアクセス状況として、不利な立地状況</li> <li>・二次交通の整備不足</li> <li>・基幹産業としていた第1次産業の衰退、若者を中心にした人口流出、過疎化、高齢化</li> <li>・インバウンド対策の遅れ</li> </ul>
外部環境	<b>機会 (Opportunity)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国体の開催</li> <li>・近隣県(和歌山県)、市町(伊勢志摩地域)を訪れる外国人観光客の増加</li> <li>・日本農業遺産認定(尾鷲ヒノキ林業)</li> <li>・太平洋・島サミットの開催</li> </ul>	<b>脅威 (Threat)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震</li> <li>・台風や集中豪雨などの風水害</li> <li>・国内旅行者の減少</li> </ul>

### (2) ターゲット

<b>○第1ターゲット層</b> 外国人観光客(台湾)
<b>○選定の理由</b> 三重県の観光施策においてコアターゲット(重点国・地域)に位置付けられてきたことから、これまでも、県と連携して情報発信やセールス活動を行ってきたところであり、その結果、来訪者数も増加傾向にある。
<b>○取組方針</b> 台湾は、訪日経験者が多く、リピーターも多い(日本政府観光局・訪日外客統計から)ことから、新たな旅行地として東紀州地域を選んでいただけるよう、引き続きプロモーションを行っていく。 今後は、「熊野古道(トレッキング)」「川の参詣道」「吉野熊野国立公園」「温泉」「豊かな食材」など、東紀州地域ならではのコンテンツを生かしながら、新たな体験プランの造成を進めていく。
<b>○第2ターゲット層</b> 外国人観光客(欧米豪)
<b>○選定の理由</b> 近隣の和歌山県(熊野古道:中辺路、小辺路など)では、欧米豪からのインバウンドが多数来訪しており、「ラグビーワールドカップ」「東京オリンピック・パラリンピック」などを契機に、今後もこうしたインバウンドのさらなる増加が予想される。

<p>○取組方針</p> <p>和歌山県を訪れるインバウンドを東紀州地域（熊野古道・伊勢路）へ呼び込むため、和歌山県あるいは奈良県も含めた関係機関と連携を図りながら、観光案内所（広域で連携した情報発信）・熊野古道（広域で統一した多言語案内板の整備）等の受入環境を整備するとともに、観光客の周遊データを収集・検証し、滞在型広域周遊観光を促進することをめざす。</p> <p>また、「紀伊半島」一体での統一した「熊野古道」のイメージのもと、プロモーションを行う。</p>									
<p>○第3ターゲット層</p> <p>国内観光客（関西圏及び中京圏）</p>									
<p>○選定の理由</p> <p>関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）及び中京圏（愛知県、岐阜県、静岡県）は、三重県への入込客数全体に占める割合が、いずれも上位2圏となっている。</p> <p>【平成29年度三重県観光客実態調査報告書より】</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>入込客数全体に占める割合</th><th>入込客に占める宿泊客の割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>関西圏</td><td>30.1%</td><td>44.9%</td></tr><tr><td>中部圏</td><td>28.5%</td><td>27.5%</td></tr></tbody></table>		入込客数全体に占める割合	入込客に占める宿泊客の割合	関西圏	30.1%	44.9%	中部圏	28.5%	27.5%
	入込客数全体に占める割合	入込客に占める宿泊客の割合							
関西圏	30.1%	44.9%							
中部圏	28.5%	27.5%							
<p>○取組方針</p> <p>三重県の観光施策に併せ、効果的な誘客促進展開を行う。</p> <p>また、「世界遺産熊野古道」と地域ならではの「自然」「食」など、東紀州地域ならではのコンテンツをブラッシュアップするとともに、新たな体験プランの開発を支援するほか、プランの造成も検討していく。</p>									

### (3) コンセプト

①コンセプト	二大聖地をむすぶ道 熊野古道伊勢路 ～幸せを結ぶ路～
②コンセプトの考え方	<p>日本古来の聖地・熊野に詣でるための路、熊野古道。平安の昔から今日まであまたの人々が足跡を刻んできたその道のりは、歴史を後世に伝え続け、2004年にユネスコの世界遺産に登録されました。2019年、登録15周年を迎えました。</p> <p>各地から熊野に向かうルートの中でも特に人気があったのが、伊勢神宮から熊野三山をめざす「熊野古道伊勢路」です。</p> <p>《めざす姿》 世界遺産熊野古道をはじめとした観光資源や温暖な気候を生かした特産品など、自然を体感できる魅力ある地域</p> <p>《取組方針》 東紀州地域の活性化を図ることを目的として、観光振興、産業振興、地域おこしの面から地域づくりを総合的に推進しています。</p>

(別添) 様式 1

	<p>(1) 観光振興 熊野古道を核とした地域資源や東紀州地域の魅力を発掘し、それらを活用した観光振興を図っていきます。熊野古道や東紀州を訪れる人・学ぶ人・好きな人を増やすために、地域の一体的な取組により受入環境を早急に整え、地域内外へ働きかけ、PR活動を行っています。</p> <p>(2) 産業振興 東紀州地域の地域資源を活用した製品・サービスの高付加価値化や販売促進、宿泊・飲食・土産物など観光サービス業の質を高める取組を進めます。</p> <p>(3) 地域おこし 熊野古道語り部友の会や熊野古道保存会、日本風景街道「伊勢熊野みち」など地域の人々による地域おこし活動を支援します。</p>
--	--

**5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション**

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	行政や関係団体など、多様な関係者から構成されるDMO協議会を必要に応じて招集し、協議を重ねるとともに、戦略の設定・共有を行う。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	各事業者向けに、インバウンドを含めた観光客対応に関する課題解決を目的としたセミナーやワークショップを開催することにより、サービスの維持・向上に取り組むとともに、他地域の事業者同士の連携強化を図る。また、三重県が実施している「観光客実態調査」により、東紀州地域の来訪者満足度やリピーター率等を把握するとともに、観光施設等でのアンケート調査を定期的に行うことで、観光客に提供するサービスを評価する。
一元的な情報発信・プロモーション	DMOを中心に、関係機関とも情報共有を図りながら、ホームページやSNS等を活用した情報発信を行う。また、国内外問わず、継続して各種商談会へ参加するとともに、セールス活動等を行う。

**6. K P I (実績・目標)****(1) 必須 K P I**

指標項目	単位	30年度 (実績)	31年度 (実績)	2年度 (目標)	3年度 (目標)	4年度 (目標)	5年度 (目標)
●観光消費額	百万円	19,686	19,686 (現状値)	21,000	21,500	22,000	22,100 以上
●延べ宿泊者数	万人	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●来訪者満足度	%	78.7	78.7	80	80	80	80
●リピーター率	%	95.2	95.2	95	95	95	95

## ※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

**【検討の経緯】**

DMO事務局で素案を作成し、行政（県、5市町）・世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業推進協議会（ワーキンググループ内）等で協議のうえ決定

**【設定にあたっての考え方】**

## ●観光消費額

「観光レクリエーション入込客数推計（三重県）」及び「観光客実態調査（三重県）」を基に算出する「観光消費額」の数値をKPI指標とする。

「三重県観光振興基本計画」における「観光消費額」の目標値を踏まえ、令和5年度の東紀州地域における観光消費額もおおむね同様の伸び率を確保することをめざして、平成30年度（実績）から約112%増として設定。

## ●延べ宿泊者数

令和2年度4月から、東紀州地域内宿泊施設へのヒアリング調査を行ったうえで目標数値を設定。

## ●来訪者満足度

「観光客実態調査（三重県）」の「東紀州 総合満足度」における「大変満足」「満足」の合計数値をKPI指標とする。

インバウンドを含めた観光客対応に関する課題解決を目的としたセミナーやワークショップを開催することにより、サービスの維持・向上に取り組むことから、各年度の目標値を「80%」に設定。

## ●リピーター率

「観光客実態調査（三重県）」の来訪回数（県）－地域別の項目における「東紀州」リピーター率の数値をKPI指標とする。

これまでの高数値を継続させることを目標として各年度の目標値を「95%」に設定。

(別添) 様式 1

## (2) その他の目標

指標項目	単位	30年度 (実績)	31年度 (実績)	2年度 (目標)	3年度 (目標)	4年度 (目標)	5年度 (目標)
●観光入込客数	千人	2,315	2,315 (現状値)	2,360	2,390	2,420	2,450
●熊野古道伊勢路来訪者数	千人	331	331 (現状値)	380	400	410	430
●外国人宿泊者数	人	3,758	3,758 (現状値)	4,800	5,500	6,300	7,516

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

DMO事務局で素案を作成し、行政（県、5市町）・世界遺産・地域産業を活用した観光DMO事業推進協議会（ワーキンググループ内）等で協議のうえ決定する。

### 【設定にあたっての考え方】

#### ●観光入込客数

「観光客実態調査（三重県）」の地域別観光入込客数をKPI指標とする。

地方創生推進交付金KPIで設定した数値目標を継続。毎年前年比約30千人の増加とし、令和5年度の目標値を「2,450千人」に設定。

#### ●熊野古道伊勢路来訪者数

東紀州地域の振興において核となる「世界遺産熊野古道」を生かした集客交流の取組を進めるため、地点調査データ等を参考に独自調査を行い、その実数をKPI指標とする。

地域のさまざまな主体と連携して、国内外から熊野古道への来訪を促進することにより、過去最高429千人を上回ることをめざし、430千人を目標として設定。

#### ●外国人宿泊者数

インバウンド誘客に係る取組の成果を測定するため、東紀州地域の外国人宿泊者数に関するヒアリング調査を行い、その実数をKPI指標とする。

「三重県観光振興基本計画」における「県内の外国人延べ宿泊者数」の目標値を踏まえ、令和5年度の東紀州地域における外国人宿泊者数もおおむね同様の伸び率を確保することをめざして、平成30年度（実績）から倍増として設定。

<b>7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し</b>
--------------------------------

<b>(1) 収入</b>
---------------

年度	総収入 (円)	内訳
平成31年度	47,610,000 (円)	【三重県負担金】 13,579,000 円 【市町負担金】 24,195,000 円 【諸収入】 5,002,000 円 【繰越金】 4,070,000 円 【語り部友の会 (自主財源)】 764,000 円 ※特別会計事業を含む
令和2年度	60,724,000 (円)	【三重県負担金】 30,248,000 円 【市町負担金】 24,195,000 円 【諸収入】 3,827,000 円 【繰越金 (雑収入)】 1,738,000 円 【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円 ※特別会計事業を含む
令和3年度	61,897,000 (円)	【三重県負担金】 30,248,000 円 【市町負担金】 24,195,000 円 【諸収入】 5,000,000 円 【繰越金 (雑収入)】 1,738,000 円 【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円 ※特別会計事業を含む
令和4年度	62,897,000 (円)	【三重県負担金】 30,248,000 円 【市町負担金】 24,195,000 円 【諸収入】 6,000,000 円 【繰越金 (雑収入)】 1,738,000 円 【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円 ※特別会計事業を含む
令和5年度	63,897,000 (円)	【三重県負担金】 30,248,000 円 【市町負担金】 24,195,000 円 【諸収入】 7,000,000 円 【繰越金 (雑収入)】 1,738,000 円 【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円 ※特別会計事業を含む



## (2) 支出

年度	総支出	内訳
平成31年度	47,610,000 (円)	<p>【一般管理費】 5,055,000 円</p> <p>【観光振興事業費】 16,870,000 円 (受入環境整備、海外プロモーション)</p> <p>【産業振興事業費】 14,746,000 円</p> <p>【特別会計事業】 10,175,000 円</p> <p>【語り部友の会 (自主財源)】 764,000 円</p>
令和2年度	60,724,000 (円)	<p>【一般管理費】 16,170,000 円</p> <p>【外国人観光客誘客事業費】 23,682,000 円 (受入環境整備、マーケティング戦略構築、 コンテンツ開発・造成)</p> <p>【産業振興事業費】 13,136,000 円</p> <p>【特別会計事業】 7,020,000 円</p> <p>【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円</p>
令和3年度	61,897,000 (円)	<p>【一般管理費】 16,170,000 円</p> <p>【外国人観光客誘客事業費】 25,512,000 円 (受入環境整備、マーケティング戦略構築、 コンテンツ開発・造成)</p> <p>【産業振興事業費】 12,479,000 円</p> <p>【特別会計事業】 7,020,000 円</p> <p>【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円</p>
令和4年度	62,897,000 (円)	<p>【一般管理費】 16,170,000 円</p> <p>【外国人観光客誘客事業費】 27,136,000 円 (受入環境整備、マーケティング戦略構築、 コンテンツ開発・造成)</p> <p>【産業振興事業費】 11,855,000 円</p> <p>【特別会計事業】 7,020,000 円</p> <p>【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円</p>
令和5年度	63,897,000 (円)	<p>【一般管理費】 16,170,000 円</p> <p>【外国人観光客誘客事業費】 28,729,000 円 (受入環境整備、マーケティング戦略構築、 コンテンツ開発・造成)</p> <p>【産業振興事業費】 11,262,000 円</p> <p>【特別会計事業】 7,020,000 円</p> <p>【語り部友の会 (自主財源)】 716,000 円</p>

(別添) 様式 1

### (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

県・市町からの補助金を引き続き受けられるよう働きかけを行うとともに、事業の委託収入等による資金確保に努め、継続的な運営に向けて取り組んでいく。

加えて、観光プロモーションの軸としている「世界遺産・熊野古道」を活用し、「熊野古道語り部」の斡旋など、手数料の収入増に努めるほか、「世界遺産・熊野古道」とその他の地域資源とを組み合わせた着地型旅行商品の地域の事業者による開発・造成販売を支援するとともに、造成販売（当面は、旅行有資格者との連携により実施）を行い、収益増加を図る。

## 8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町、三重県は、一般社団法人東紀州地域振興公社を当該都道府県及び市町における地域連携DMOとして登録したいので、一般社団法人東紀州地域振興公社とともに申請します。

## 9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	水谷 綾那
担当部署名（役職）	一般社団法人東紀州地域振興公社（主事）
所在地	三重県熊野市井戸町371番地
電話番号（直通）	0597-89-6172
FAX 番号	0597-89-6184
E-mail	kousha@higashikishu.org

## 10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	三重県尾鷲市
担当者氏名	世古 雅弘
担当部署名（役職）	商工観光課（観光交流係長）
所在地	三重県尾鷲市中央町10番43号
電話番号（直通）	0597-23-8223
FAX 番号	0597-23-8225
E-mail	kankou@city.owase.lg.jp

都道府県・市町村名	三重県熊野市
担当者氏名	更家 操
担当部署名（役職）	熊野市観光スポーツ交流課（観光交流係長）
所在地	三重県熊野市井戸町796番地
電話番号（直通）	0597-89-4111（内線431）
FAX 番号	0597-89-3742
E-mail	kankou-en@city.kumano.mie.jp

## (別添) 様式 1

都道府県・市町村名	三重県紀北町
担当者氏名	家倉 尚子
担当部署名 (役職)	商工観光課 (観光係長)
所在地	三重県北牟婁郡紀北町東長島 7 6 9 番地 1
電話番号 (直通)	0597-46-3115
FAX 番号	0597-47-5906
E-mail	yagura-n@town.mie-kihoku.lg.jp

都道府県・市町村名	三重県御浜町
担当者氏名	林 健太郎
担当部署名 (役職)	企画課 (課長補佐)
所在地	三重県南牟婁郡御浜町大字阿田和 6 1 2 0 番地 1
電話番号 (直通)	05979-3-0507
FAX 番号	05979-2-3502
E-mail	m-kikaku@town.mihama.mie.jp

都道府県・市町村名	三重県紀宝町
担当者氏名	田中 正剛
担当部署名 (役職)	企画調整課 (課長補佐)
所在地	三重県南牟婁郡紀宝町鶴殿 3 2 4 番地
電話番号 (直通)	0735-33-0334
FAX 番号	0735-32-1102
E-mail	tanaka-sho@town.kiho.lg.jp

都道府県・市町村名	三重県
担当者氏名	臼井 一馬
担当部署名 (役職)	東紀州振興課 (主任)
所在地	三重県津市広明町 1 3 番地
電話番号 (直通)	059-224-2193
FAX 番号	059-224-2418
E-mail	usuik00@pref.mie.lg.jp